

普及活動情勢報告（令和5年12月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

知事賞、センター所長賞の選出 ～JAまつり農産物展示品評会～



農産物を真剣に審査する普及指導員ら

11月18日、須崎市で、JA土佐くろしお営農指導員と当課職員がJAまつり農産物展示品評会の出展作物を審査しました。

品評会は、この3年間は中止や規模を縮小していましたが、今年度はキュウリ、ミョウガやシシトウをはじめとする野菜、花卉など304点が出展され、コロナ禍前とほぼ同規模の農産物が集まりました。促成栽培は定植以降好天に恵まれ、収穫ピーク後の樹勢が弱る時期にもかかわらず、品質の優れた野菜、花卉などが多く、そのなかでも特に優れたものを知事賞や振興センター所長賞として選出しました。

当課は今後も引き続き、関係機関とともに栽培技術や品質向上のための取り組みを行っていきます。

地域農業の現状や将来について話し合おう ～中土佐町大野見地区地域計画策定座談会～



熱心に話し合う参加者ら

11月21日、28日、12月5日、12日の4日間、中土佐町大野見地区4ヶ所で地域計画策定に向けた座談会が開催され、農家や関係機関職員などのべ50人程度が参加しました。

当課は町と共に、現在及び今後の農地利用と耕作者を聞き取り、耕作を続けるための取組などについての話し合いを支援しました。

大野見地区は水稻生産が主で、「水稻だけでは経営が成り立たないので、後継者に耕作を勧められない」「自分が今後5～10年は耕作するが、その後は分からない」等の厳しい意見が出ました。

当課は、地域計画策定から営農の継続についての話し合いを支援していきます。

米ナス青枯病対策 ～薬剤メーカーと次作の土壌消毒について検討～



生産者、薬剤メーカーと次作に向けた検討を行う普及指導員

11月29日、津野町米ナスほ場で、薬剤メーカーと生産者、当課職員が、土壌消毒の新たな方法を検討しました。

米ナス栽培では青枯病のまん延による減収が課題となっています。前作までは土壌くん蒸剤単剤処理でしたが抑えられず、今作はクロルピクリン剤とダゾメット剤を併用した土壌消毒処理を試しましたが、期待する効果が得られませんでした。

生産者からは、「青枯病を抑制するために、できることをやっていきたい」との意見があり、次作に向けて新たな手法を試すことになりました。

当課は、新たな手法による青枯病抑制効果の実証を支援します。

農薬散布作業の省力化に向けて ～ミョウガハウスでの常温煙霧試験～



常温煙霧機

11月30日に、須崎市内のミョウガハウスで、JA2人、機材メーカー2人、農業技術センター4人、当課3人が参加し、常温煙霧試験を行いました。

試験では、ほ場内20カ所に感水紙を設置し、農薬の飛散範囲を確認したほか、薬害、薬効の調査も行いました。

ミョウガの草丈はハウスのほり付近まで高くなるため、農薬をほ場全体にムラなく散布することは生産者にとってかなりの重労働ですが、常温煙霧の作業は、機械設置後は散布液を用意してスイッチを押すだけなので、農家の作業負担を大幅に少なくできます。

当課は、農薬散布作業の省力化の取組みを、関係機関と連携して進めていきます。

集落営農組織の経営安定に向けて ～須崎地区集落営農組織等代表者連絡会の研修会～



熱心に意見交換する参加者

12月1日、須崎総合庁舎会議室で当課主導による研修会を開催し、3市町の集落営農組織の代表者や関係機関職員など13人が参加しました。

当日は、農事組合法人藤の川ファーマーズ理事から「四万十町藤ノ川の地域を守る戦略づくり」についての講演、その後「自分たちの組織が他の組織と連携したら何ができるか」をテーマに意見交換を行いました。

参加者からは、課題として人員確保が挙がり、解決策として「まず地域住民に自分達の活動を知ってもらおう」「草刈りの研修会を開催し、作業に従事できる人を増やしたい」等の前向きな意見が出ました。

当課は、集落営農組織の経営安定に向けて、今回出された意見が各組織の課題解決に活かされるよう取り組んでいきます。

省力的な農業技術を紹介しました ～スマート農業技術の講習・ドローン実演会～



熱心に講習を受ける農業者ら

12月5日、梶原町四万川地区で、環境農業推進課及び当課職員を講師にスマート農業や空中散布用ドローンの講習会を開催し、農業者等8人と梶原町職員1人が参加しました。

スマート農業に関する施策や最新機器の説明、導入の際に活用できる事業の紹介の後、ドローンによる空中散布の実演を行いました。

参加者はドローンについて「農薬散布の時間が短くて済むきえいね」「経費が思ったよりかかるがやね」と感想を言い合ったり、「風の強いときには使用できるのか」と質問をしていました。

当課は今後も、農業者等へ農作業の効率化に係る情報を提供していきます。

有機農産物の販売拡大について ～有機農業実務担当者研修会（第2回）の開催～



県施策の説明を受ける実務担当者ら

12月7日、須崎総合庁舎で第2回研修会を開催し、実務担当者9人が出席しました。有機農業の課題に挙げられている出口対策を進めるために、県農産物マーケティング戦略課職員を講師に販売拡大に関する施策について学び、意見交換を行いました。

講師からは、野菜、ユズ、米それぞれに狙うべきターゲットを設定した販売戦略について説明がありました。「高くても売れる」考え方のヒント、消費者の価値観を踏まえた「エシカル消費」に注目した販売など、新たな視点の紹介もありました。

意見交換では、有機農業の推進への戸惑いなども聞かれました。今後は次年度に向けて、課題を整理し活動を検討していきます。

地域計画策定のために ～梶原町越知面地区の話し合い～



講師（一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所 藤山所長）の質問に答える参加者ら

12月15日、梶原町から地区に働きかけ、梶原町越知面地区で、区長外6人の地域住民と町、県（農業政策課と当課）職員が集まり、地域計画策定に向けた話し合いの場を持ち、当課は、町と共に講師の招へい等の準備を行いました。

話し合いでは、講師が、まず地区人口の推移の特徴、予測などを説明し、次に地域を維持していくために住民自らが考えて行動する計画（農地利用を含む）を次年度にかけて作ることを提案し、参加者の同意を得ました。

その後、地域の現状を聞き取り、地区内には様々な活動があること、すでに区長の発案で地域の将来像について若者中心の会合が持たれていること等が解りました。

当課は、町と共に地区の話し合いを支援していきます。